

講演会

「バイオ医薬品への取組み」

第一三共(株) 常務執行役員 研究開発本部長

古賀 淳一 氏

日時 2月13日(月) 15時 開演

場所 農学研究科 C101講義室

【講演概要】

現代の医薬品研究開発は、ターゲットと新しいメカニズムの発見に始まる研究開発から、技術に重みをおいた開発と変わってきているといえる。その角度から考えると、1980年代から始まったバイオ医薬品の発展の経緯は別の風景に見えてくる。バイオ医薬品、バイオ後続品やバイオベクター、そして細胞治療、次世代のワクチン等々。

また、癌免疫療法のあり方も、ある意味、これまで考えられていたターゲットやメカニズムへの挑戦を、技術が可能にしてきていると捉えるべきだろう。

そのような不可能が可能になる時代に、どのような挑戦がありうるのかを一緒に考えてみたい。その題材として、旧態依然としていた第一三共が、どのような動きをとってきたのか？という観点で、みていきたい。

【講演者略歴】

古賀 淳一 第一三共(株) 執行役員 研究開発本部 バイオ統括部長

- ・ 京都大学卒業 サイトカイニンアンタゴニストの合成
- ・ 医学博士 (京都府立医科大学 微生物学教室) HSV特異的糖蛋白の研究

【職歴】

- ・ 日本ケミカルリサーチ(株) 取締役研究本部長 (-2001)
- ・ アムジェン(株)/武田バイオ(株) 取締役開発推進本部長 (-2009)

【社外での研究歴】

- ・ 京大ウイルス研、遺伝学教室 ラムダファージを用いた遺伝子機能解析のためのベクター開発
- ・ アラバマ大学バーミングハム校医学部 単純ヘルペスウイルスの糖タンパクに関する研究
- ・ 阪大微生物病研究所感染病理学教室 HIVを用いたウイルス安全性試験に関する研究と抗HIV活性物質の探索

【業界活動】

- ・ 製薬協 ICHプロジェクト委員会 (1992-2016)、Q5A並びにCTD-Q-Bioトピックリーダー、Q5E並びにQ11副トピックリーダー
- ・ 日本バイオロジクスフォーラム発起人、世話人 (2003-)
- ・ 製薬協 バイオ医薬品委員会副委員長 (2010-)、委員長 (2016-)
- ・ 日本DIAアドバイザー (2013-2015)
- ・ Global CaSSS Foundation Associate Director (2017-)

申込み：不要

問い合わせ先：神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教務学生係

Tel: (078)803-5474

E-mail: stin-kyomu@office.kobe-u.ac.jp